

令和 6 年度 自己評価及び学校関係者評価書

令和 7 年 3 月 6 日
市立札幌大通高等学校

スクール・ミッション

- 生徒一人一人の個性・能力を伸ばし、自らが目標に向かって挑戦することができる学びの場
- 生徒一人一人の社会的・職業的な自立に向けて、自らが主体的に生き方や将来を探究することができる学びの場
- 生徒一人一人の社会性を育み、自らが積極的に考えを表現し、他者との豊かな人間関係を構築することができる学びの場

スクール・ポリシー

- 育成を目指す資質・能力に関する方針（グラデュエーション・ポリシー）
 - <生徒の皆さんに目指してほしい資質・能力>
 - ①自己を高め、目標に向かって、自己実現を図ることができる
 - ②意欲をもって主体的に学習し、興味・関心を深く探究できる
 - ③主体的に自己の生き方や進路について探究し、様々な困難を乗り越え、社会の担い手として自立できる
 - ④多様な価値観を受容し、他者を認める寛容な心を持ち、豊かな人間関係を築くことができる
- 教育課程の編成及び実施に関する方針 カリキュラム・ポリシー
 - <本校での学び>
 - ①生徒の様々な学習状況に対応するため、多様な学びの場を設定する
 - ②生徒の能力に応じたきめ細やかな指導により、基礎・基本の定着を図る
 - ③生徒の習得した知識や体験等を応用し、創造性や課題解決能力の育成を図る
- 入学者の受け入れに関する方針 アドミッション・ポリシー
 - <求める人物像>
 - ①学ぶ意欲にあふれる人
 - ②人とのコミュニケーションを大切にできる人
 - ③仲間と共に積極的に学校づくりに参加できる人

本校の重点目標

- (1) 自己を高め、目標に向かって、自己実現を図ることができる生徒を育てる。
- (2) 意欲・熱意を持って主体的に学習し、興味・関心を深く探究する生徒を育てる。
- (3) 主体的に自己の生き方や進路について探究し、様々な困難を乗り越える逞しい生徒を育てる。
- (4) 規範意識を身につけ、勤労を尊ぶ、有為な社会人として自立していける生徒を育てる。
- (5) 多様な価値観を受容し、他者を認める寛容な心を持ち、豊かな人間関係を築ける生徒を育てる。

分野	評価項目	自己評価		学校関係者評価	
		達成状況	改善方向	自己評価の適切さ	改善策の適切さ
総合	・大通高校に入学する前と比べて、安心して学校生活を送ることができている。 ・高校入学前と比べて、友人関係の広がりや活動の変化、人間的な成長を感じる。	A	「安心して学校生活を送ることができる」の生徒の回答は凡そ9割であり、若干ではあるが昨年度よりも多くの生徒が安心感を実感している。この点において、保護者の肯定的回答も昨年度より増加し、9割を超えていることから、概ね安心できる学校環境を提供できているものと思われる。ただし、10.6%の生徒は未だ学校生活への安心感が満たされていないと感じていると思われるため、引き続き、生徒が安心できる環境づくりを検討するとともに、全ての生徒が安心して学校生活が送れるよう教職員による生徒への丁寧な対応を進めていく必要があると考える。 「入学する前と比べて友人関係が広がった」と感じている生徒の割合についても昨年度より若干ではあるが増加し、「入学する前と比べて活動的になったと思う」と感じている保護者の割合は前年比で0.2ポイントも上昇し、本校のスクールポリシーで謳われている「他者との豊かな人間関係を構築する学びの場」の実現に徐々に近づいているように思われる。生徒が個人としての活動を充実させるのみならず、生徒間の交流をうまく実現させるような校内の取組を検討が求められる。	A	A
学校関係者評価者による意見	最も重要な指標であり、様々な思いをもつ生徒が在籍する中、全体的に評価が高く生徒・保護者共満足している肯定的な意見が多いことは、先生方のご尽力の賜物であると同時に安堵しています。 この結果は、生徒個人のベースで学べる環境が生徒のニーズと一致しており、生徒に対するケアも充実している点が生徒たちの安心感に繋がったのだと考えます。 しかし、教職員の生徒の人間的な成長を感じるのが低下しているため、来年度はこの点を意識しながら、今後も生徒たちのニーズに合ったサポート体制を整えていた抱けることを期待しています。 また、「安心した学校生活が送れている」「友人関係が広がった」という生徒の割合が少しであっても増加しているということを前向き捉え、評価すべきであると考えます。そのことにより、学校全体の雰囲気もより変化していくと考える。				
学習	・多くの生徒が、授業に出るのが楽しみで、わかり易い授業が多く、授業内容を理解している。	B	「わかりやすい授業が多い」について肯定的回答をする生徒の割合が昨年度の93%という高い値から12%減少し、81%となった。さらに「多くの生徒が授業内容を理解している」と感じている教職員の割合が72%とほぼ昨年並みであることから、在籍する生徒の状況に合わせた授業の工夫が必要かもしれない。また、「授業に出るのが楽しみ」という科目がある」の生徒の回答が74%（昨年度77%）、「授業に出るのを楽しみにしている生徒が多い」の教職員の回答が61%（昨年度69%）とともに減少傾向にあり、生徒の興味関心を高める授業の実践を目指したい。 保護者の学習に関するニーズでは、「高い学力」よりも「学び直し」を優先する意識が高く、「高い学力」（55%）に対し、「学び直し」（84%）となった。 基礎基本の定着を目指しながら、様々な生徒の学習ニーズに対応した授業改善、ICTを活用した授業実践の研究、「指導・学びと評価の一体化」を踏まえた観点別学習評価の充実など、生徒の学習活動と学びの意欲の充実に向けた取組を、昨年度に引き続き深めていきたい。	A	B
学校関係者評価者による意見	授業について、午前部、午後部、夜間部によって感じ方に違いが出てくると思いますが、それぞれの部ごとに授業の進捗速度や内容を変えていくなどの工夫が必要かも知れません。 例えば、「社会に近い学校」という観点から、現在の学びが社会に出た際、どのような場面で必要になるかということイメージできる授業を進めるなども生徒たちの興味関心を引く一つのアイデアだと思います。 わかりやすい授業については、生徒の認識なので難しいこととは思いますが、教職員の方の評価で「あまりそう思わない」や「全くそう思わない」という評価があることに少し不安を感じます。今後は、教職員が生徒の様子を高く評価できるようになることを期待します。 本校は不登校などを経験した生徒も多いので学び直しのニーズが高いのも理解できます。 保護者のニーズが「学び直し」を優先しているという点を受けた改善の方向が良いと感じた。「基礎基本の定着を目指す」ことで、生徒一人一人に自信が付き、学ぶ楽しさを感じられるようになることも期待します。				

<p>キャリア 進路指導</p>	<ul style="list-style-type: none"> 生徒が色々な社会体験（ボランティア、職場体験等）をする機会を増やし、仕事や社会の仕組みについて学ぶ機会が多い。 「総合的な探究の時間」「キャリア探究」など、本校のキャリア教育の内容を理解している。 授業や学校行事で聞いた、進路についての話を参考にしている。 	<p>B</p>	<p>「目標に向かって挑戦し、主体的に自己の生き方や進路について探究し、豊かな人間関係を築ける生徒を育てる」という重点目標のもと、「総合的な探究の時間」「キャリア探究」において様々な取組を行っている。</p> <p>インターンシップをはじめ多くの進路探究的な学習活動は外部の協力などを得ながら効果的に実施できていると実感している。しかしながら「授業や学校行事で聞いた進路について話を参考にする」生徒の回答が73%と昨年度と変化はなく、さらに将来の進路に資するものにして行くことも可能であると思われる。</p> <p>生徒のキャリア形成に資する取組として「キャリア探究」等の学校設定科目を設置し、生徒個々の関心を引くような多様なプログラムを紹介し履修を促している。履修生徒にはキャリア形成の視点での効果が見られており、今後はより多くの生徒に積極的な履修を促していきたい。</p> <p>本校のキャリア教育の内容と効果的な取組について、生徒のキャリア形成の視点から、生徒の意識づけを一層高め、生き方や進路についての自己の主体的な探究心をさらに高める方策を検討し取り組んでいきたいと考えている。</p>	<p>A</p>	<p>A</p>
<p>学校関係者評価者による 意見</p>	<p>大きな夢に向かうことは大切なことですが、現実的な視点で将来と考えていくことも大切なことではないかと考えます。現代の子どもたちは直接的な体験の機会が減少しており、実感を伴った経験が少ないと感じている。そのような体験を、学校生活の中で少しでも保障する必要があると感じている。幼稚園が隣接していることから、その役割の一端を担っているのではないかと考えられます。進路未定の生徒の多くは何をしてよいかかわからない、何になりたいか、何になれるのかなどの悩みを抱えています。そのような生徒に対しては、自分は何ができるのかという視点で指導していくなど寄り添った指導も必要ではないかと考えます。教職員の中には社会経験を増やすのに否定的な方がいるように思います。その場合の生徒への影響を考慮するべきであると思えます。よい仕組みがあるので教職員の方も良い方向に考えていただくことを期待したい。</p>				
<p>多様な 支援 と 外部連携</p>	<ul style="list-style-type: none"> 学校で気軽に先生方と関わることができる。また、スクールカウンセラーなど、外部の人たちと接する機会が多い。 保護者や外部の人々が、学校運営に参加する仕組みがある。 さまざまな困難や障がいを抱えた生徒に対する、サポート体制がある。また、教員間で、情報交換がおこなわれている。 	<p>B</p>	<p>ドーリ・ブレイスや外部講師を招いての多くの取組は、従来の実施方法により工夫を加えながら実践している。「教員以外の外部の人たちと接する機会が多い」と感じている生徒が昨年度の43%から49%に増え、年々成果が得られるようになってきている。外部の方から受ける意識も徐々に高まっていると考えられ、今後も引き続きその実施機会を積極的に紹介していきたい。</p> <p>「気軽に先生と関わることができる」生徒が76%、逆に「できていない」が24%とここ数年変化していない。個別面談などをはじめ、個々の生徒への接し方や生徒支援の方策を検討していきたい。</p> <p>「さまざまな困難や障がいを抱えた生徒に対するサポート体制がある」保護者は74%（昨年度75%）と変化なく、多様な生徒に対する本校の支援について理解していただいている様子が窺える。今後は学校、保護者との共通理解を図るとともに、本校の取組について、積極的に発信し、保護者の皆様に積極的に学校の取組への協力を引き続きお願いしていきたい。</p>	<p>A</p>	<p>B</p>
<p>学校関係者評価者による 意見</p>	<p>開かれた学校として本校は様々な取組を進めている。今後も積極的に紹介していただきたい。また、「気軽に先生と関わることができる」が76%もいることに私は驚きを感じている。今後の方策も大切であるが、現時点でも生徒からは、教師の姿勢が十分評価されていると感じている。</p> <p>具体的には、ドーリブレイス等教職員、自分の保護者以外の大人と接する機会は重要な時間だと考えますので今後もブラッシュアップしながら継続していくべきだと考えます。さらに、PTA、振興会も同時の行事立案などもっと関与していくべきだと思います。保護者に対してはPTAの活動、振興会の活動をもっと身近に感じていただく工夫が必要であるとともに、多くの保護者が気軽に参加できる行事の立案や参加しやすい環境作りも必要だと感じます。</p> <p>生徒の意見では、「教員以外の外部の人たちと接する機会が多い」が昨年度より増えているが全体の評定からするとまだまだ低いので引き続き多くの取組をして生徒がより肯定的に実感できるようにしてほしいと思えます。</p> <p>保護者や関係者が学校運営に参加する仕組みについては、今後、意見を受けて「何が変わった」のかを可視化していただきたい。</p>				
<p>生徒指導 ・ 特別教育 活動</p>	<ul style="list-style-type: none"> 先生以外のスタッフ（カウンセラーやボランティア等）と関わる機会を多く持っている。さらに充実させる。 困った時や悩み事があるときに、相談できる大人がいる。 生徒の人間的な成長を感じる。 	<p>B</p>	<p>「自分の周りには、困ったことや悩み事があるときに相談できる大人がいる」生徒の回答が67%であるが、逆に33%の生徒がそう思わないと読み取れ、その傾向は昨年度と同様である。教育相談や支援体制の効果的な対応や生徒の安心感を高める方策を、引き続き検討し実践したい。</p> <p>「入学する前と比べて自分が人間的に成長できた」生徒の回答が81%（昨年度80%）と自ら成長した実感を得ている生徒の割合が多く、本校での学びに一定程度の成果があったものと思われる。本校の特別活動や学習活動、キャリア教育の取組と生徒の意識がマッチしている割合が高まってきていると考えられ、より効果的な教育活動を検討し実践していきたい。</p> <p>生徒の学校生活についての「のびのびと自由な学校生活」、「マナーや礼儀を身につけさせる機会」の項目では、保護者の回答がともに9割以上となっており、本校に期待する部分が表されているものと思われる。</p> <p>本校に入学した生徒のさらなる人間的な成長につなげられるよう、学習活動や特別活動、キャリア教育等の場面でその視点を取り入れ、生徒一人一人を大切に教育活動の充実を図っていきたくと考えている。</p>	<p>A</p>	<p>A</p>
<p>学校関係者評価者による 意見</p>	<p>大通高校に入学する生徒には悩み事等抱えた生徒が多く、今後もできるだけ多くのスタッフと関わる機会を多く持つようにしていただきたい。</p> <p>本校のカウンセリング体制は充実しており、安心して学校生活を送れる要因の一つとなっておりますが、「悩みごとの相談」については、大通高校に在籍する生徒及び高校生の年齢においては特にデリケートな部分であり、教育相談という形のみではなく、教師に気軽に関わることができ、親しみがもてれば変化が見られてくるのではないかと感じている。引き続きの取組に期待します。</p> <p>また、相談という敷居が高いと感じる生徒も少なからずいると感じますので、話を聞いてくれるだけでよいとか共感を得たいという生徒をフォローする窓口があってもよいと思います。現在のドーリブレイスなどが担っておりますが、学校生活は自己管理が求められる環境にありますので自然と身についていくことを期待しています。</p> <p>マナーや礼儀につきまして、多くは家庭で身につけていくものだと思います。その点については学校としても明確に役割分担をすべきと考えます。</p> <p>先生以外の大人との関りは、それ自身が目的ではなく、生徒ひとりひとりの支援や成長のための手段です。どういう意図でどういう外部スタッフ（が提供する機会）とマッチングするのか、コーディネーターとしての役割を期待します。（コーディネート機能自体を外部スタッフと協働するという考え方もあります）</p>				
<p>大通高校として評価を受け 今後の課題</p>	<p>まず、本評価を行うにあたり、指標となる生徒・保護者・教職員の意識を調査したアンケートにおいて、保護者の皆様からの回答回収率が低かったことは、本校における教育を積極的に保護者の皆様にも理解いただく努力が不足していた結果だと捉えている。</p> <p>また、一部、学びに関わる部分などの意識において、教職員と生徒に差異が生じていることから生徒の実情をしっかりと把握した授業を実践し、生徒一人一人が興味関心を高めながら積極的に学びに向かう姿を実現したい。</p> <p>開校当初から現在までの間に、入学する生徒の特性などが徐々に変化していることについても指摘をいただいていることから、過去の経験をもとにした取組ではなく、ニーズを的確に把握することを大切にしたい。</p> <p>ただし、「社会に近い学校」「誰でも学び直せる場」である本校の存在意義を掲げ続け、本校を本当に必要とする生徒を一人でも多く迎えることができるよう、さらに教育の質を高められるよう努める必要がある。</p>				

<評価> A:よく達成されている B:ほぼ達成されているが改善も必要 C:不十分である